

ヨルダン

皆さん、はじめまして。ポリテクセンター兵庫の寺田さんから紹介いただいた青木です。

テラさんに初めて会ったときは、“はっきり物事を言う恐そうな先輩”という印象でしたが、人は見かけによらないもので(テラさん、ごめんなさい)、面倒見の良い親切な先輩で、当時新卒だった私を手取り足取り指導してくれました。休日には食糧を差し入れしてくれたり、公私ともに本当にお世話になりました。

そんなテラさんの依頼を断るわけにもいかず、二つ返事で調子良く答えたものの、締め切りが近づくにつれて頭を抱える羽目に…。うーん、この性格で何度しんどい思いをしたことが…。

さて、今回は昨年7月まで滞在していたヨルダン国を紹介させていただきます。

ヨルダンは中近東に位置し、シリア、イラク、サウジアラビア、イスラエルに囲まれた砂漠の国です。

「ヨルダン川西岸」とか「中近東」と耳にすると、きな臭いイメージを連想する方も多いと思いますが、実際は治安も良くて平和な国です。

国内には「死海」や「ペトラ」等の有名な観光地が多くあり、観光客で賑わっています。

「青い空」… ヨルダンには乾期があり、この期間は雲一つない晴天の日が続きます。晴天は水不足の原因となるため、現地の人たちには歓迎されませんが、雲一つない青い空は、嫌なことが全部吹き飛ばすくらいの素晴らしい光景です。

「美しい女性たち」… ヨルダンの女性は、外に出かけるときは、頭巾をかぶります。しかし、若い女性の中には、欧米同様のファッションで歩いてい



右から3人目が筆者

る人もいます。彼女たちは目が大きくて、本当にきれいです。中には恐いくらいの美人もあり、あの瞳に見つめられると…、ああ……。独身の私にとって、彼女たちは本物の女神のようでした。

「愛嬌のある男たち」… ヨルダンの男性はいつもニコニコしていて、冗談が大好きです。あの笑顔を見ていると、こっちまでつられてしまいます(仕事するときまでニコニコしており、困ってしまうことも)。

なぜか私の周りには、素晴らしい笑顔の持ち主が多く(特に大家さん)、何度となく“笑顔攻撃”の標的になりましたが、憎めない人たちでした。

お金はあまりないものの、美人の奥さんとかわいい子供たちに囲まれて、ほのぼのと暮らしている彼らを見ていると、“ヨルダン人として生まれたほうが幸せだったかもしれんなー”と思うこともあります。

以上、「青い空」と「美しい女性たち」と「愛嬌のある男たち」の国「ヨルダン」を紹介させていただきました。

皆さんも機会があれば、一度訪れてみてはいかがでしょうか

でしょうか。

さて、今回の「リレートーク」は、能開総合大の重谷さんをお願いしたいと思います。

彼はポリテク静岡にいた頃の飲み友達で、かなりの“飲み食い道楽”です。

今でも暴飲暴食(!?)していることと思います。ほんじゃ、シゲちゃん、よろしく頼むネ。

リレートーク【2】

高度ポリテクセンター 平野 健次

私の現況報告

雇用・能力開発機構本部の先輩である伊勢崎さんから突然の電話。多忙とはいえ、たいへんお世話になった方からのご依頼。お断りするわけにはいかず、リレートークを引き受けさせていただくことになりました。

ありがたいことなのですが、仕事は増えても減ることはありません。セミナー開催の要望や相談事項が多く、その内容の多くは、古くなった業務の仕組みが成り立たなくなる、どう立て直すべきかという中堅、大企業の方からの切実な相談が数多く寄せられてきます。一緒になって考えますが、今の時代、ベストプラクティスを学習し、それを真似し、仮にそれをすぐに実践できたとしても必ずしも成功するわけではなく、最終的には、オン・デマンドの発想を大切に、自分たちの知恵で事業システムを再構築していくしかありません。

特に今、IT（情報技術）という用語が花盛りですが、具体的にその世界観をうかがってみると、単に効率化の道具という程度の認識しかなく、工業化社会の延長線上に情報化社会をとらえているという感じを受け、とても嘆かわしく感じるが多々あり

ます。企業のお手伝いをするとき、さまざまな失敗を繰り返して経験を積み、それを実際に活かしていくという余裕があればよいといつも思うのですが、グローバルな競争時代では、それすら与えてくれない状況になるといえるでしょう。

昨今における変革の方向性をみると、従来の仕事のやり方を覆し、さまざまな新しいビジネスモデルを生み出しつつあるといえます。先進的な企業体では、すでにドラスティブな改革を行い、新しい事業活動の計画や準備を着々と行っています。21世紀は、デコンストラクション（業務構造の分解と再構築）が急進し、競争に勝てない、従来のレガシーな事業システムは、その多くが駆逐され、消滅することになるでしょう。

特にニューエコノミーの台頭により、バリューチェーンの強固な関係の再構築が急進し、次世代のビジネス勢力図を大きく塗り替えようとしています。

さて、昨今のような激しい変革の時代、私たちは、どのように対処すればよいのでしょうか。今後は、急激な変革に対応していくことができる人材を育成するための能力開発が重要視されることでしょう。特に新しい時代に対応できる質的側面で充実した能

力開発を自らが発信する必要性があり、それらに対する期待はますます高まるのではないかと思います。

それには、過去の経験を重要視しながらも、それにこだわらない柔軟な発想、科学的な視点に基づく論理的な問題解決への取り組みが、今まで以上に必要になると思います。

幸いにも雇用・能力開発機構の置かれた立場は、その期待を担うだけの基盤である各拠点施設と指導員、指導ノウハウを保有しています。英知を結集すれば、職業能力開発分野のパイオニア的存在として、この21世紀を生き残っていけると信じています。そのためには、このような時代に生きる一人として、自分の果たすべき役割をきちんと認識する必要があるということ、常々考えなくてはならないと感じ

ています。

というわけで、今は、先端的なセミナーの企画を通じて、受講企業のいろいろな要望に総合的に対応しなくてはなりませんので、余暇の時間が昔ほどありませんが、趣味のドライブや旅行、スキーをのんびり楽しむ時代がまた来るのを期待して、今は自分の専門分野に専念しているところです。

少々退屈な話にはなりましたが、特にこれといった面白い話題もありませんでしたので、現況報告で誌面を埋めさせていただきました。

次は、高度ポリテクセンターと一緒に仕事をさせていただいた先輩である本部の松原さんです。それでは、よろしく願い申し上げます。

